

中学校の部

最優秀

「ただいま」と言おう

岩国市立岩国中学校

「うっとうしい。気をつけてね。」

母は、毎朝、決まり文句のようにそう言う。

時間に遅れ、あわてて家を出るときは特に、

「気をつけて。車をよく見てね。」

と、大声で叫んでくる。

「もう、わかっているって。」

私は母の言葉が、時々うっとうしかった。

幼稚園児はあるまいし、ただ歩いているだけで、車にひかれる確率なんて、ものすごく

低い事だと思っているからだ。

そんな日々の中、

「小学生が乗用車にはねられ、死亡しました。」
や、

「中学生女子生徒二人が川に流され、死亡しました。」

などの痛ましい事故は、毎日のようにテレビのニュースで目にする。母はきつと、このようなニュースを見て不安になるのだろう。

「私は大丈夫だから。」

と、ニュースを見ても、なぜか他人事のように感じていた。もちろん、亡くなった方や、そのご家族のことを思うと、胸が痛くなる。大切な家族を急に失うなんて……想像しただけで、涙が出そうになる。

世間が、新型コロナウイルスで大騒ぎになっている中、私は中学生になり、妹は小学生になった。妹は同級生の中では、背丈が小

さく、ランドセルがとても大きく見える。
今まで毎朝、母の送迎だった妹が、

「うっせえお母。」

と言つて、登校する姿を見て、私は思わず、

「うっせえおしゃい。気をつけてね。車をよく
見てね、道路は絶対に走つたらだめよ。」

と、うっせえおしゃいと思つたことのあるあの言
葉を発していた。そうか、母は毎朝、こんな
気持ちなのか……。最愛の家族の「もしも」
を考えて、

「うっせえおしゃい。気をつけてね。」

と言つていたのだ。

「ただいま。」

妹が無事に帰ってきた時の、何とも言えな
い気持ちは、幸福感にあふれた、今まで感じ
たことのない感情だった。

「おかえり。」

母と私は笑顔で妹を迎え入れた。ただ無事

に帰って来てくれただけで、嬉しくて、気づ
いたら抱き締めていた。毎日当たり前のように
言つていた、「ただいま」と、「おかえり」
が特別なものを感じた。

休校中は、私が母を見送る日々だった。

「うっせえお母。」

ぎりぎりまで家事をして、急いで車で出かけ
ようとしてゐる母に、

「うっせえおしゃい。気をつけてね。飛ばさな
くてね。」

と言つて、

「わかったよ。ありがとう。気をつけるね。」

と笑顔で出かけていった。

「うっせえおしゃい」にこめられた想いは、決
して簡単に聞き流してはいけなかった。

私の帰りを待つていてくれる、愛情が沢山
込められた言葉だと気付いた。

小学校に入学したばかりの頃、学校で交通

安全教室があつた。手を挙げて、横断歩道を右よし、左よし、右よし、と見て渡る。小学生のときちゃんと出来ていた当たり前の事が、中学生になつた今、ちゃんと出来ているだろうか。大丈夫だからと、おこたつてはいないだろうか。私が事故にあえば、父も母も妹も、祖父や祖母も、きつと沢山の人が悲しむだろう。

交通安全のルールは、自分を守るためと、大切な人を悲しませないためでもあるのだと思う。事故は、いくつかの偶然が重なって起こる。決して他人事ではない。生活していく中で、誰でも事故にあつてしまう可能性はゼロではない。だからこそ、交通ルールをきちんと守つて、事故を防がなければならない。車を運転するドライバーは、常に、自分の命と、人の命にも責任を持つ必要があると思う。特に高齢者は、車が来て避けるのにも時

間がかかる。横断歩道を渡るのも、ゆっくりだ。誰もが皆歳を重ね、いつか自分もその立場になるのだから、優しく、温かい気持ちで高齢者の安全を私達で守つてあげたい。

妹の初登校の日に感じた気持ちを、私はずっと忘れずにいたい。

大切な家族の

「ただいま」

の言葉だけで、毎日幸せを感じていられる。

命よりも大切なものなんて、この世には絶対にないのだから。

自分の命は自分で守ろう。

大切な人との、かけがえのない日々を、決して失つてはいけな

い。

必ず明日も

「ただいま」と言おう。